

2015年3月期 第3四半期決算 電話カンファレンス

主な質疑応答

日時 : 2015年1月30日(金) 14:00 ~ 15:00

応答者 : 代表取締役 専務執行役員 瀬川 達生

広報・IR グループリーダー 小林 太郎

1. 財務制限条項抵触解消について

Q : 財務制限条項抵触を回避したとのことですが、その他条件の変更など、もう少し詳しく説明して下さい。

A : リリース文に記載の通りですが、金融機関にお願いして、金利を上げるなどの条件変更なしで、財務制限条項の適用免除あるいは一部変更、ならびに継続取引を認めていただいております。手数料を支払うことになっていますが非常に軽微な額です。また希薄化を伴うような金融商品の発行もありません。

2. 第3四半期 決算について

Q : 営業外費用で試作費用として計上した11億円は何でしょうか？

A : 試作費用の11億円は、マレーシア PS-1 で継続している試運転、どうすれば改良できるか等々を見極めるための運転に係る費用です。およそ半分が11月~12月に行った PS-1 の定期修繕の費用で、他に原料や人件費などがあります。第2四半期までに発生した試運転費用は全て建設仮勘定に計上し減損処理を行いましたので、この中には入っておりません。

3. 通期業績予想について

Q : 化成品と特殊品の第3四半期から第4四半期への営業利益の動き方に関して説明して下さい。

A : 化成品は原燃料価格が下がるものの、製品の販売価格への影響も勘案して堅めの予想をしています。特殊品は第4四半期にかけて半導体向け多結晶シリコンの販売数量が増加しますが、マレーシアの稼働は10月末の想定を下回る見込みで、計画値に対しては厳しい見方をしています。

4. 減損したトクヤママレーシア PS-1 について

Q : 装置メーカーへの求償はどうなりましたか？

A : 我々としては求償する権利があるという認識で準備を進めています。求償すると法廷闘争あるいは仲裁所に持ち込まれ、それに関わる費用が発生するので、現在先方の財務状態などを精査し、求償のタイミングを見計らっています。

5. トクヤママレーシア PS-2 について

Q : PS-2 の状況を説明して下さい。

A : 昨年 10 月 1 日から運転を開始していますが、動かす過程で、ちょっとした機器トラブルや不具合が見つかり、一部で動かしては止めたりということが起きています。したがって製造コストあるいはキャッシュコストが少し高めには出ているかもしれませんが。直近では、キャッシュコストも下がってきており、12 月のある一定の期間においては、現時点での目標値を下回ることもありました。1~3 月の販売は 10~12 月の実績を上回る計画です。

Q : 第 3 四半期 (3 カ月) の減価償却費について、グループ全体とトクヤママレーシア PS-2 それぞれの発生額を教えてください。

A : グループ全体では 50 億円強、うち PS-2 は年間の減価償却費が約 50 億円ですので、その 1/4 の 12 億円程度です。

6. 社長交代について

Q : トクヤママレーシアが含まれる特殊品のご出身である横田氏が新社長に選ばれた理由を教えてください。

A : 危機的な状況にあるトクヤマグループの中で、それを打開して、元の姿にし、かつそれから成長戦略を実現していくために一番ふさわしい人物が選ばれたということです。横田新社長が特殊品部門の部門長になったのは昨年のことです。

以上